

## 分子研を去るにあたり



京都大学大学院理学研究科教授 谷村 吉隆  
(前 理論研究系分子基礎理論第二研究部門助教授)

分子研を去って半年が過ぎた。外から眺めて改めて感ずるが、分子研は間違いなく分子科学における日本最高の研究機関である。分子研を対抗勢力と見たとき、これだけ手ごわい相手はなかなかあるまい。しかし内部にいて、そして外に出た者には分子研の弱点も見えてくる。特に独法化は分子研にとっては両刃の刃となろう。分子研が対抗勢力となった今の立場から、そのへんのことを指摘することは、分子研をますます強くすることになるか、あるいは余計なお世話と単に嫌われるだけかもしれないが、余計なお世話もたまにはしたくなる。敵に塩を送ろう。

分子研の強さは人・金・組織の3つがあげられよう。分子研の本質的な問題はこれのお金の問題から始まる。お金の問題といっても、私は分子研が貧乏になるとは思っていない。E地区の伽藍作りを見てわかるように、分子研は勝ち組でありお金はむしろ集まっていくのだ。しかし問題はこれのお金のとり方にある。今日、分子研が必要とする程度のまとまったお金を取るには、政府主導のプロジェクト型研究に乗るしかない。分子研の魅力の1つが潤沢な資金とすると、分子研はプロジェクトに合致したプロポーザルを書かざるを得ないし、人材もそれに合わせて雇用していくしかない。分子研に限らず科学の重要な研究の多くが、主流から外れた人材とテーマ(少なくともその当時は)で成されたことは教訓深い。プロジェクト型の研究費を取るなら、当然研究テーマに束縛が入り人材も偏る。もちろん分子研は勝ち組であり、その分野でも大きな成果をあげていくだろう。

しかしそれは分子研が、産業化が主題とした研究

所である産総研化を意味し分子研の特徴と存在意義を失わせる。そしてその影響は、最終的には分子研を支えている組織まで行くと思う。あまり表に見えないが、分子研は分子研外部のコミュニティーにより支えられている。人事部や評議委員会等、外部委員の献身的な協力がなければ、今日の分子研はないだろう。(分子研の教授は会議が多いと文句を言うが、文句を言えるのは何の義務もない外部委員だけだと思う)。分子研が自身の研究費の必要性から、短視的な方向に行くのなら、これまで支えたコミュニティーは間違いなく離れるだろう。新しいコミュニティーが形成されようが、それはより工学的な色彩は強まったものとなり、産総研化に拍車がかかろう。それがよいかどうかは別にして、すでにその動きは始まっているように思える。それを食い止めるにはどうするか？

私は自分にとってどうでもいい問題を分析するのを趣味とする。(最近もテレビ番組「トリビアの泉」の「ヘエ」がよい状態関数かどうかを検討したが、サンプルの選択方法を改善すれば状態関数に成りうると思われる)。分子研を分析すると、プロジェクトを追わずにいる(資金をあきらめる)ことは現実的選択とは思えない。プロジェクトを追う限り、それに合わせた人材を雇用することもある意味で必須であろう。分子研の優れた人事雇用システムが幸いし、これまでのところプロジェクト型でメンバーとなった(あるいはなる)人材も日本トップクラスであり、分野が偏っていること以外、全く問題はない。ポイントはその偏りをどうするかだ。それは発想を転換するだけで解決すると思う。つまりプロジェク

ト的に雇用された人材がプロジェクト以外の研究を始めればよいと考える。

研究は意外性が命だと思う。プロジェクト型のテーマでプロポーザル通りに研究したとしても、少なくとも私は評価しない。私が感心するとしたら、例えばナノの研究者が虫の免疫の研究をしたり、バイオの研究者が半導体を作ったりするときだ。プロジェクト型で雇用されたなら、放っておいてもプロジェクトの研究はするであろう。それはそこそこやっていればいい。研究者が本当に分子研らしい研究をするとしたら、それ以外の新しい研究をするときにあると思う。競争激しい分野でリーダーシップをとっているのだから、それぐらい行うポテンシャルは持っている。(実際、最近某レーザー分光の大家の先生が分子磁石の研究をやっていたのには感心した)。その時、研究成果報告で「もナノですから」とか、「をやっておけばバイオに結びつきます」といった、苦しい言い訳はやめてほしい。「新しい展開となる現象(あるいは物質)を発見しましたので」で、いいではないか。現在の分子研を(まだ)支援しているのは、基礎科学の意義を理解し、それを支えるおおらかさを持った人材であり、それを評価こそすれ否定する雰囲気ではない。そうやってプロジェクトを逆に分子研のカラーで染めていけば、それは分子科学の境界を広げることであり、分子研の存在意義にもかなっている。分子研は、喜びも憎しみも全てを抱いて流れる母なる大河のような存在であってほしい。